

平成28年度 磐田市立豊田中学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
授業づくり	◎基礎学力の定着と主体的な学びづくり ○学ぶ喜び、分かる楽しさが味わえる授業づくり ・付たい力の押さえと振り返りの実践 ・「気づき」を生かした授業、生徒の「問い」を大切に した授業 ・対話で考えを深める授業（協調的な学び）	授業の内容がよく分かると答える生徒 85%	B	81%	○全国学力学習状況調査において、本校3年生の学力定着状況は国語、数学ともに良好な結果であった。特に活用に関する問題においては全国及び県平均を上回っていた。一方、評価指標とした生徒アンケートでは、「授業の内容がよく分かる。」で目標値に及ばなかった。今年度の校内研修のテーマを「主体的に学ぶ生徒の育成」とし、「問い」や「気づき」を大切に した授業づくりを研究主題として取り組んできたが、生徒の学習に対する取組や意欲に差が見られ、基礎・基本の確実な定着について課題が残った。 ※今年度の反省を踏まえ以下の点を重点に教育活動を展開する。 ・基礎学力の定着：個への支援の充実、放課後学習室 ・学び方指導：目的・目標をもち主体的に学ぶ学び方指導 「家庭学習の手引き」の活用 ・授業力向上：校内研修、OJT研修 ・小中一貫教育：9か年の学びの連続性を踏まえた授業の実践
	◎学びの姿勢づくり ○学び方指導の充実 ・話し方、聴き方の定着 ・「家庭学習の手引き」の活用	進んで先生に聞いたり自分で調べたりすると答える生徒 70%		70%	
		毎日家庭学習をしていると答える生徒 85%		86%	
仲間づくり	◎・安心感のある学級経営の工夫 ・人間関係づくりプログラムとQ.U.を生かした学級づくり ・挨拶、黙働、靴揃え	進んで挨拶をすると答える生徒 95%	B	91%	○本校3大行事（鉄人遠足、体育大会、合唱コンクール）等を通して、学級の絆を強め、仲間づくりを推進することができた。評価指標とした生徒アンケートでは、2項目で目標値に及ばなかった。「ルールやマナーをしっかりと守っている。」は目標値に達しており、規律ある生活を心掛けて いる多くの生徒により落ち着いた学校生活を送ることができている。一方で、「学級が楽しい」で目標値に達しなかった。生徒個々への声掛けにより、より生徒が安心できる居場所づくりを進める必要がある。 ※今年度の反省を踏まえ以下の点を重点に教育活動を展開する。 ・学級づくり：絆づくり、居場所づくりによる学級経営 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの効果的活用
	◎絆づくり (生徒自らが主体的に活動する場の設定) ○生徒自らが「絆」を感じ取り、紡いでいく活動の充実 ・生徒会や学級における自治的活動の充実 ・生徒が主体となる3大行事を生かした取組	ルールやマナーをしっかりと守って生活していると答える生徒 95%		95%	
		学級が楽しいと答える生徒 95%		87%	
こころざしづくり	◎目標に向かって挑戦する自分づくり ○地域に根ざしたひと、もの、こととのかかわりの推進 (地域学習、未来授業、職業講話、職業体験、防災学習等)	難しいと思うことにも失敗を恐れずに挑戦していると答える生徒 75%	B	71%	○今年度1年生で「地域学習」を実施した。地域に出かけて地域の方から直接話を聞いたり、講師として招いて交流する場面を設定した。2年生では、昨年度からの「未来授業」を引き続き実施し、働く意義や生き方について考える機会とした。また、今年度も2日間の職場体験を実施した。様々な体験的な学習を通して、本校の教育目標である「こころざし」を育む教育を推進することができた。出席率については、これまで不登校だった3年生が頑張っで登校できるようになったり、1年生の欠席が少ないことにより目標値を達成することができた。 ※今年度の反省を踏まえ以下の点を重点的に教育活動を展開する。 ・「未来授業」をより効果的な形で実施 ・地域人材の積極的な活用 ・「こころざしをかなえる力」の育成
	◎健やかな心と体づくり ・学習成果の発信 ・姿勢、歯磨きの習慣化 ○生活安全、交通安全、災害安全に関する指導の充実	出席率 95%以上		96%	

学校関係者評価を受けてのまとめ

今年度の学校評価、学校関係者評価を受け、来年度は「こころざしをもち、たくましく生き抜く生徒の育成」という学校教育目標は継続する。学校経営目標としては、教職員が生徒の模範となることが重要であると考え、「こころざしをもち、たくましく生き抜く教職員、チーム学校」とする。そして、キャリア教育とESDの視点から、すべての教育活動の中で意図的、計画的に、「こころざし」と「こころざしを実現する力」の育成を図る。

- ・主体的に学ぶ生徒の育成をテーマとして校内研修を進める。特に、生徒に付たい力の押さえと振り返りの実践を通して、授業改善、授業力向上を図る。学びの姿勢づくりとともに、達成感や学びの喜び、学びの価値を味わうことができる授業を創造する。また、教科横断的な視点から課題意識や問題意識を育み、生徒の主体的な学びを推進する。
- ・人間関係づくりプログラムの効果的な活用とQ.U.を生かした学級づくりに取り組み、一人一人の生徒の心の居場所づくりと学校行事等を通した生徒の絆の醸成を図る。
- ・信頼される学校を目指し、学校運営協議会、学府協議会を中心に開かれた学校づくりを推進する。1年生の「地域学習」、2年生の「未来授業」「職業体験」など体験的な学習の充実を図り、地域の教育力を積極的に活用する中で、家庭・地域との連携をより強化する。また、「豊中サポーター」の体制づくりを強化し、生徒の学習支援・環境整備を推進する。
- ・小中一貫教育の視点から9年間の学びの連続性を意識した指導の充実を図る。学府一体校への動きの中で、ながふじ学府としての小中の教員、生徒の交流を一層進める。生徒一人一人の理解を深め、個に応じた適切な指導を継続して行うことにより、不登校への対策を講じる。